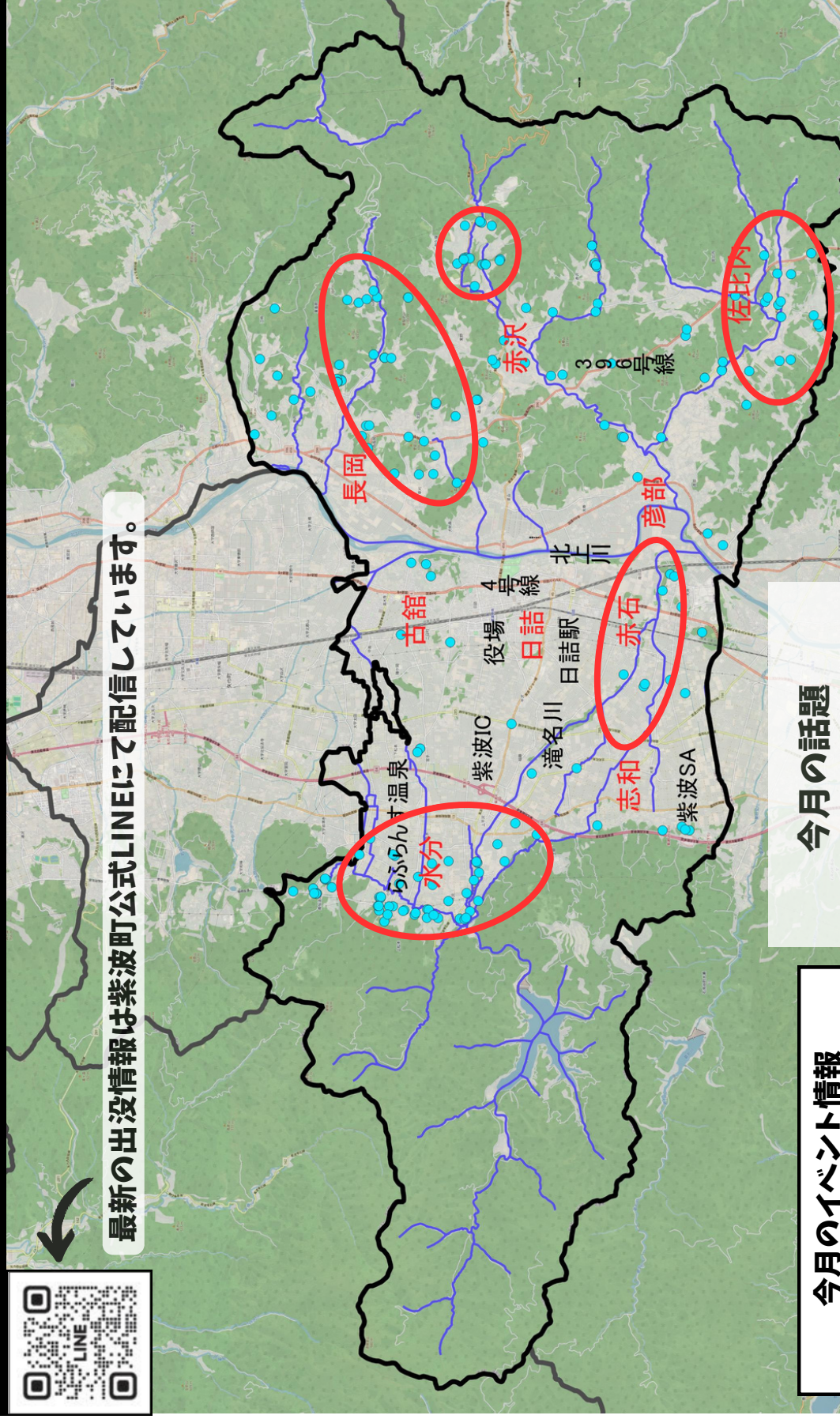


発行日 令和8年8月5日

紫波町におけるR1～R7年のクマ出没情報（8月）



最新の出没情報 紫波町公式LINEにて配信しています。



今月のイベント情報

夜のとしよかん
「今すぐ知りたい！クマのこと」
8月27日(木) 19:30~20:
紫波町としよかん

今日

住宅に侵入する
クマの行動心理！

出沒・被害警戒エリア

滝名川周辺、水分西部、東長岡周辺、
山屋地区、船久保地区、佐比内地区など

紫波クマ通信

17

發行

2026年8月5日

紫波町環境課
地域おこし協力隊

近藤雄太

8月のクマ情報

8月はクマによる農作物被害が本格的になってくる季節になります。

8月は山にクマの餌となる木の実や新芽が非常に少なく、エサを探して人里近くへとクマがやってきやすいとされています。紫波町で特に多い被害が東部地域ではぶどうや桃などの果樹被害、西部地域ではキュウリ被害と家畜の飼料を狙った被害です。

また、滝名川沿いを中心に町中心部での出没も例年確認されており、今年度は特に町中心部での出没が多くなっていることから引き続き草やぶに近づかない、クマの餌になるものを家の外に置かないなどの対策に取り組んでいただければ幸いです。

先月は雫石町で相次いでいたことから、クマの住宅などの建物への侵入について懸念される方も多いのではないかと思います。幸い、現在のところ紫波町内においては直近でのクマの建物への侵入事例については確認されておりません。ですが、昨年度は佐比内地区においてどう小屋に侵入を繰り返すクマが出没し捕獲した事例もあり、今の時期は餌が少ないこともあってクマは一度執着すると何度もやってくるようになる可能性が非常に高いです。自宅はもちろん、農作物の貯蔵小屋などもしっかりとした施錠を行うようにして、クマが侵入しないように対策を行うようお願いいたします。もし、クマの建物への侵入が確認された際には、ただちに紫波町環境課まで連絡をいただくことも併せてお願いいたします。



ベアドッグでクマを追う！

クマのニュースを聞いているとたまに耳にすることがあるベアドッグ、クマの存在を察知し、適切に追い払う能力を持つように特別な訓練を受けた犬のことだ。

日本では北海道や軽井沢で実際に導入をされており、クマの追い払い、移動経路の特定、クマの存在を人間に知らせることに伴う野外活動時の安全確保などに役立っている。

元々日本にはベアドッグの文化はなく、アメリカなどの育成機関で育成された個体を輸入して利用されてきた。近年では国内でも数は少ないが繁殖例がある。ベアドッグはあくまで吠えることでクマを追い払うことも目的としたものであり、狩猟などで利用される「マタギ犬」とは異なる存在だ。

ベアドッグはクマを追い払うことでクマの人里への出没を抑制し、被害の事前予防という点でクマと人間との共生において非常に注目をされているが、日本国内ではほとんど普及していない。普及していない理由としては、ベアドッグを飼育、育成できるブリーダーがいないということが大きい。

住宅に侵入する
クマの行動心理！

先月は隣接する雫石町にて住宅への侵入を繰り返し、冷蔵庫の中身をあさっていくクマが出没していることが大きな話題となった。昨年度にも北上市で米を狙うクマが住宅への侵入を繰り返すという同じような事態が起きて人身事故にもつながっており、そのようなクマの存在は非常に危険である。

だが、そんな危険なクマが突如として現れるのかといえば、そうではない。クマという生き物は非常に学習能力が高く、学習の積み重ねによって住宅への侵入を繰り返す危険なクマになってしまっていることがある。

まず、本来クマは警戒心が高い生き物であり、住宅付近では人目を避けて夜間に行動することが多く、いきなり建物の中に入ってくるということは稀だ。クマが住宅付近で最初に目をつけるのはクリや柿などの放置された果樹や家の外に置きっぱなしになっているペットの餌などの食べ物だ。それらを食べているうちに住宅付近でも安全だと学習をしたクマは施錠をされていない小屋に置いてある農作物やビニールハウスの中の農作物に手を出すようになる。その経験を得て建物に入ることを覚えたクマは、エサの匂いを嗅ぎつけて住宅へも侵入するようになることがある。

また、近年の空家の増加や人を恐れないクマの増加もクマが人の建物へ侵入することの心理的ハードルを低下させる要因となっているだろう。

こうしたクマを出さないためには住宅付近でいい思いをさせないことが重要だ。クマの手の出せる家の外に食べ物となるものを置かないこと、農作物等をしまっている小屋はしっかりと施錠をすることなど、こうした日々の対策がクマの住宅侵入のリスクを低下させる。

一度建物への侵入をしていい思いをしたクマは他の場所でも同じような行動を繰り返す。自分自身の安全のため、地域の安全のためにもクマの誘引物管理が重要だ。

